

とくしま梨産地パワーアップ戦略

目的

鳴門藍住地区は、日本有数の早出しの梨産地であるが、生産者の高齢化や老木化から面積、生産量が減少傾向にある。(H2年329ha→R4年204ha)

そこで、産地を担う後継者への支援、省力化技術の導入および改植の推進等を行う支援体制を整備し、徳島のブランド品目としての梨産地の維持・発展を図る。

課題

【担い手、技術面】

- ・生産者高齢化、担い手不足
- ・ジョイント栽培等省力化技術の導入
- ・地球温暖化の影響による発芽不良の発生

- ・若手、新規生産者への栽培技術伝承
- ・輸入花粉の使用停止に伴う花粉の確保

【園地面】

- ・栽培面積、生産量の減少
- ・改植、新植に労力や費用の負担大（老木の伐採、抜根、パワーショベル、棚の設置等）
- ・老木化による生産性の低下

課題解決に向けて

【支援体制の整備面】

- ・各関係機関の連携による支援体制の整備

【担い手、技術】

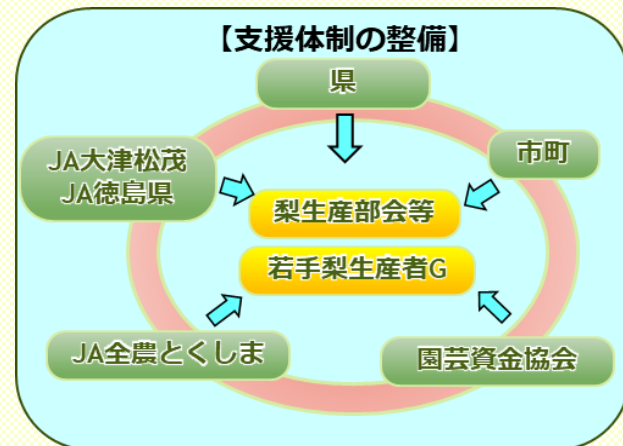
- ・若手生産者グループを主なターゲットにした栽培技術支援
- ・省力化および生産性向上の技術の導入の促進（ジョイント栽培の推進、新品種導入など）
- ・新規栽培希望者の把握（情報共有、広報）
- ・地球温暖化対策施肥体系の実証展示ほの設置

【園地面】

- ・ジョイント栽培モデル園地の設置（取組事例周知）
- ・改植、新植モデル園地の設置（取組事例周知）
- ・栽培意向調査（アンケート）＆リタイヤ園マッチング支援

関連事業

新次元・持続可能な産地振興プロジェクト事業
勝ち抜く！園芸産地強靱化事業、
経営開始資金、経営発展支援事業、
果樹経営支援対策事業等



目指すべき姿

○徳島のブランド品目としての持続可能な梨産地の維持・発展

- ・梨産地を担う後継者が育成され、産地の維持・発展のための支援体制が整備
- ・改植技術およびジョイント栽培等の省力化技術の普及による生産性向上と産地維持・発展
- ・地球温暖化に対応した栽培体系の確立

<成果目標 (R16)>

若手を主体とした改植・新植面積 10ha
省力化技術（ジョイント等）の導入園・経営規模拡大園数 +50戸



栽培面積維持（200ha）
生産量向上（+100t）

